

事業改善に向けた有識者懇話会（ブラッシュアップ懇話会）での有識者からの意見と当初予算要求への反映状況等

担当部：総務部

全体的な事項

	意見	当初予算要求への反映状況等
1	●「目標達成状況」の考え方に違和感がある。目標に向かって現状からどれだけ実績を伸ばせたかが本来の目的達成状況であるべきだから、本来であれば、(実績値-現状値)/(目標値-現状値)といった数式の解で表されるべきではないだろうか。	・ご意見にある数式での算定は、現在の評価基準においては、目標値が累計値（ストック指標）の場合において、当該年度にどれだけ実績を伸ばせたかを計るため、適用しているところです。目標値が単年度値（フロー指標）の場合においては、目標値が現状を維持するもの（緊急課題解決1：緊急に減災対策を実施する市町の数：29市町）や、県民にとって悪影響を及ぼす事象が発生させないことが目標となっているもの（施策114：感染症の集団発生事例数：0件）など、必ずしも実績を伸ばすことを目指す目標ばかりではないことから、(実績値/目標値)で算定することが適切と考えています。 目標達成状況の算定は、県民にとって分かりやすく明確なものであるべきことから、可能な限り共通の算定式によることが望ましいと考えていますが、次期計画の評価においては、ご意見もふまえ、適切な評価基準の設定に努めてまいります。
2	●担当部局の論理や用語が、県民一般には理解しがたいこともあるので、施策や事業の説明に際しては、説明責任を意識して、明快な論理と用語での説明を心がけてほしい。	・県においては、「職員の仕事遂行にあたっての行動指針～五つの心得～」の中で、「○県民の皆さんとのコミュニケーションは協創の第一歩。（中略）県民の皆さんに県政情報を分かりやすく伝え、共有していく視点を大切にします。」としています。今後とも、県民の皆さんに分かりやすい情報提供に努めてまいります。
3	●目標を上回った活動指標等については「目標達成状況」の数値を、1.0を超えて記述しても良いのではないだろうか。	・ご意見の表記方法は可能ではありますが、現在の「評価結果をふまえた施策等の進捗度の判断基準」において、活動指標の平均達成率を一つの目安としており、ひとつでも100%を大幅に超える目標項目があると、平均達成率が大幅に上昇することとなります。この点も勘案し、今後とも適切な評価基準、表記のあり方について検討してまいります。
4	●当初予算額と決算額の乖離が大きい事業が見受けられる。これらについては補正予算や繰越等により対応されているとのことだが、限られた経営資源が有効に活用されるよう、当初予算額と決算額の乖離が大きいものについてはしっかりと分析を行うべきである。	・予算については、当初予算成立後に発生した事由によって、当初予算どおりの執行が困難となった場合や、避けたい理由のために年度内に事業が完了しない場合などについて、補正予算を編成したり繰越で対応する場合があります。また、厳しい財政状況をふまえ、予算の執行にあたっては、できる限りの費用の縮減に努めているところです。これらのことから、当初予算額と決算額に乖離が生じているところです。 今後は、予算額と決算額との適切な対比が可能となるよう、平成25年度事業マネジメントシート（事務事業）からは、予算額の欄に最終補正後予算額を記載することとします。 なお、当初予算額と決算額の乖離が大きいものについては、ご意見のとおり限られた経営資源が有効に活用されるよう、次年度の予算編成にあたって分析を行い、適切な予算の調整に努めてまいります。